

令和7年度 アユ遡上調査結果（速報）

1. 調査概要

調査日程：令和7年4月 28、30日(8:00～15:30)

令和7年5月 19、20日(8:00～15:00)

調査方法：潜水目視調査（個体数カウント）

調査地点：1号床止工～8号床止工周辺



令和7年4月30日

写真1 調査時の2号床止工の状況



図1 調査位置図

2. アユの確認状況

今回の調査では、合計751個体のアユが確認された。

このうち、606個体が2号から3号床止工周辺で確認された。

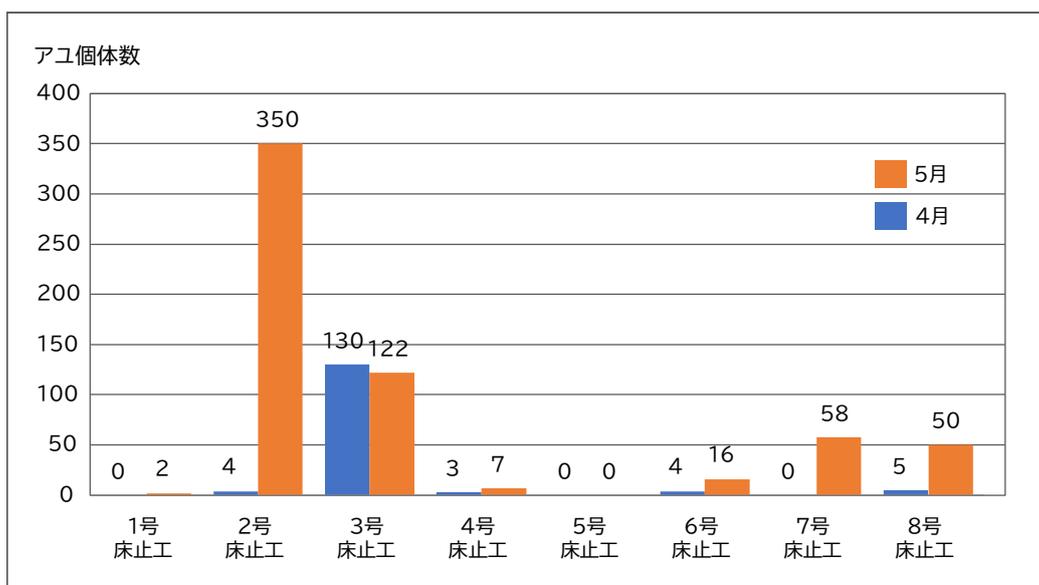


図2 各床止工近傍のアユの個体数

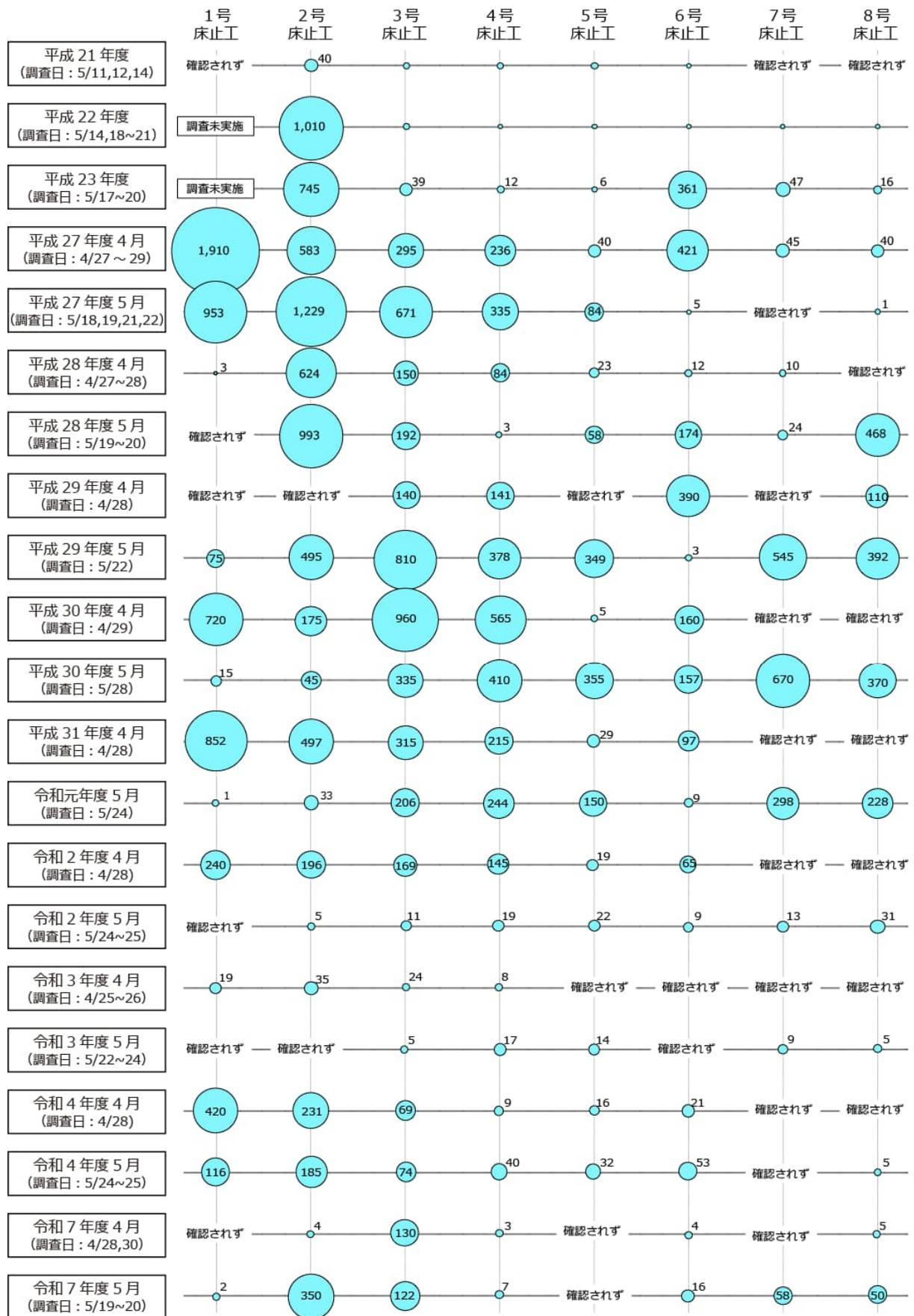


図 3 各床止工周辺域で確認されたアユの個体数

3. 結果のまとめ

- ・令和7年度の4月調査時は、1号から3号床止工の撤去及び改築工事を施工中であった。1号床止工は、4月の調査時点で右岸側の構造物が撤去されており、5月の調査時点では左岸側も撤去されていたため、現地には人工的な構造物が存在しない状態であった。
- ・アユの確認個体数は、4月調査時が146個体、5月調査時が605個体であり、令和4年度の調査結果と近い結果であった。
- ・最も多くの個体を確認されたのは2号床止工の下流側（5月）であった。
- ・2号床止工は工事により、傾斜が緩やかな浅瀬が広がる環境であったが、床止工内に魚を捕食しようとするアオサギやカワウ等が多数飛来している状況も見られた。
- ・6号床止工より上流側では、4月の調査時にはわずかな個体数しか確認されなかったが、5月にはより多くの個体を確認された。

<参考>

現地調査中に、アユのほか、ボラ、ナマズ、コイ、ゴクラクハゼ、カワムツ、ウキゴリ属、チチブ属など多くの魚種やモクズガニなどが確認された。なお、目視観察では種の識別が困難な種が多く、そのような種は属で区分している。

調査時に確認された主な魚種の写真を示す。



スミウキゴリ（4号床止工）



ゴクラクハゼ（4号床止工）



ヨシノボリ属（7号床止工）



ナマズ（8号床止工）



ウナギ（2号床止工）



モクズガニ（6号床止工）